

「都電と自転車とリサイクル産業」を活かし、 脱クルマ優先社会＝自転車と人を大事にした街づくりを

①街の伝統を大切にしたい「都電と自転車の街・あらかわ」キャンペーンを

荒川区に昔からある都電・自転車・リサイクル産業は環境にやさしいもの。路面電車は、地球温暖化防止に効果のある公共交通として、見直されている。かつて、荒川区には300を超える自転車産業の集積があり、関東一の生産高を誇っていた。

街の伝統を大切にしたい「都電と自転車の街・あらかわ」キャンペーンで、環境先進都市あらかわが、脱クルマ優先社会のモデルとして日本を引っ張ってほしい。

区：今年度地域特性を活かした環境交通政策を探る有識者会議を設置する。

②「歩きたくなる街」をつくるための緑化推進計画について

健康のためにも、認知症予防にも、歩くことが何より大切と言われている。緑の少ない荒川区だからこそ、路地裏の緑のあるたたずまいをさらに魅力的にする工夫をしてほしい。

- ・街路樹やガードレールの代わりのつる植物や、駐車場や建物脇のちょっとしたスペースの緑化など、個人や企業に対しても、知恵と工夫を区から積極的に提供したらどうか。指標を活用し定量化した緑化推進計画が必要ではないか。
- ・生垣助成制度の年間助成実績が1件とは情けない。推進体制の整備・改善が必要。
- ・街路樹や公園緑地への関心を高めるために樹木医等を講師とする自然観察会や樹名板取り付けなどを企画したらどうか。

区：生垣や街路樹、植え込みなど整備をはかりたい。

区民参加の講習会など重要。緑化推進計画は必要と考える。

③「廃プラスチック焼却」区長会決定についての区長の見解は？

決定は、今までの「分ければ資源」として進めてきたごみ減量の方針に反し、二酸化炭素の増加や安全性の懸念など検討すべき課題が多い。区民には何も知らされていないのは地方自治に反する。**検討すべき課題**も多いのではないかな。

区：最終処分場がひっ迫しているため、燃やして熱エネルギー利用することにした。所管委員会に報告した。安全性を確認して公表する。

プラスチックは
可燃 不燃



子どもの喘息
大丈夫

- ◆環境教育を混乱させる
- ◆プラスチックは燃やしていいという意識からごみの削減に逆行する
- ◆ペットボトルやトレイの回収率低下のおそれがある
- ◆焼却量を増やして二酸化炭素を増加させる
- ◆組成のわからないプラスチックの化学反応により生成する物質が検証できない

有害物質は多数あるのに、ダイオキシン以外は基準値も決まっていない

ごみを減らそう!!

処理コスト比較（一キロあたり）

ごみ＝55円 資源＝39円 ペットボトル＝170円

ペットボトルのリサイクル費はこんなにも高い。本来、便利さを享受している消費者と利益を得ている業界が負担すべきで、行政が負担すべきではない。国の業界寄りの姿勢が問題。ごみを減らすには、ごみになるものは作らない仕組みを作ること、リサイクル費用を含めた商品の値段設定が必要。

といっても、区としても分別の徹底・レジ袋削減・使い捨ての見直しなど、もっとできることがある。安易に「燃やしてしまう」のは環境破壊だ。

区内にはリサイクル事業者が多い。区として、ごみ削減、リサイクルに積極的に取り組み、環境先進都市をめざしてほしい。

最終処分処分場はひっ迫しているといっても、あと30年はもつようです。多摩地区は、分別徹底と資源化により、不燃ごみを半分に減らしました。なぜ、23区でできないのでしょうか？

